

2019年4月、甲南学園は創立100周年を迎えます。

百世不磨



社会に必要とされる人物の育成をめざし、教育に情熱を注いだ創立者平生鈇三郎の教え。その数々を、永遠に消えることなく、存在し続けるさまを表す「百世不磨」という標題にたとえ紹介いたします。

凡て人は皆天才である。

唯其の程度に金銀銅鉄と云う風な差があるのみである。

それを皆金に仕上げようとするのはギリシヤの錬金術者の様なもので、

それは不可能事だが、金銀銅鉄それぞれに其の本務があるのだから、

それを發揮せしめるように指導しなければならぬ。

—— 神戸市教育総会での講演より

平生鈇三郎 甲南学園創立者 1866(慶応2)年～1945(昭和20)年

実業家として東京海上保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献し、川崎造船所の再建にも携わる。甲南病院の設立や、灘購買組合(現・コープこうべ)の結成に尽力するなど社会事業にも情熱を傾けた。また政界では、文部大臣として義務教育の年限延長や官学と私学の差別撤廃などを提唱した。さらに教育事業家・教育者であることに天職を見いだしていた平生は、甲南幼稚園および甲南小学校の設立に参画し、甲南中学校さらに旧制甲南高等学校を創立した。

16名の志が、平生鈇三郎の手元から羽ばたいた。  
天賦の個性を呼び出すことこそ教育の本質。

1926(大正15)年、当時、平生鈇三郎は実業家生活の現役を退き、もっぱら学生の養成に力を尽くしていました。「凡て人は皆天才である」という言葉は、そのころ、高等教育を受けた人の不祥事が頻発したことを憂いて、平生が述べたものです。さらに、人を「金銀銅鉄」にたとえて言葉を次の通り続けています。

「画」主義の教育では、各々の個性を失い同じような人間にしてしまふ。そうではなく、人間天賦の個性を呼び出して、それを發育させることこそが、教育本来の役割である」。

当時の画「主義、詰め込み主義の学校教育に対する

し、人が本来持っている知識や個性を引き出し、自分で考える人に育てていくべきであるという平生の教育観が如実に表れています。

1924(大正13)年には、甲南学園の創始とされる甲南中学校から第二回卒業生を16名輩出。2年後には甲南高等学校から43名が卒業し、全員が官立大学に合格しました。彼らはいずれも、自らの「金銀銅鉄」を磨き上げ、学園から羽ばたいていきました。

そして、90年後の現在、平生のこの教育観は「個性を力」という言葉によって、甲南学園に継承されています。



甲南中学校第一回卒業式。平生教育を宿した16名が卒業した。1924(大正13)年

甲南新世紀教育への序章——「世界に通用する才幹」の育成をめざして——

現在、甲南学園は、甲南教育の伝統のもと、「世界に通用し、個性を力にできる才幹」を育て上げるため、甲南新世紀に向けた教育を展開しています。

甲南大学においては、「圧倒的な教育力」を確立するために、新しい教育機能を發揮する「KONAN INFINITY COMMONS」(甲南インフィニティ・COMMONS)などの建設計画を柱に、すべての授業において最適少人数化を徹底し、そこから引き出される生まれ、自発性や能動性、対話を身につけ、

個性を確立した学生の育成をめざします。さらに、どの学部・学科においても受けることができる融合型グローバル教育の推進など、メディアム・サイエンスの総合大学という特長を最大限に生かし、格段の教育力の向上を実現します。

また、甲南高等学校・中学校では、100周年を迎える2019年に、「フロントランナー」[アドバンスト]の2コースが完成年度となることから、グローバル教育・サイエンス教育・ICT教育の推進をキーワードに教育環境の充実を図ります。



学園創立100周年事業の一環として建設中の「KONAN INFINITY COMMONS」

# 人間の魂が 人間をつくる

人間は人間の魂の力に  
依らなければ  
つくれるものではないと  
私は信じてゐる

平生鈇三郎述「私は斯う思ふ」岩井尊人編（千倉書房、一九三六年）

教育で日本を変えようと志した平生鈇三郎が  
理想と掲げた教育は、いかに継承されているのか。

平生鈇三郎にとって、甲南学園の創立は日本の教育を変革するための挑戦でもありました。教育事業に乗り出した大正から昭和初期は、日本を含め国際情勢が激動の時代。そのようななかで、日本の先行きを問いつけた平生は、教育によって日本を変えようという答えを見いだしたのです。「現代の教育の如き知育偏重は真の教育にあらず、真の教育とは真人間を造るに在り、正しき道に依りて自ら働き自ら活るの人造ること」と考え、知識の詰

め込みでなく人間と人間が直に接し、若者を国のため、社会のため、人々のために働くことのできる立派な社会人に育てていくことの大切さを主張し続けました。生前、生徒にまじり意見を交わす平生の姿がよく見られたといえます。それは、生徒たちとのふれあいを通して自らが手本となるように心がけていたからでしょう。本日5月22日は平生の生誕より百五十年を迎える日です。甲南学園は、人と人、魂と魂で向き合う教育を受け継いでまいります。

高い志を育む教育は、  
平生の意志を継承しつつ時代に  
応じて進化。

1919（大正8）年、甲南中学校として開学し七年制高等学校を経て現在に至る甲南高等学校・中学校。建学の理念に則り、一人ひとりの人間性・才能・創造性を伸長させることに加え、世界に視野を広げ「国際社会で生きぬく力」の養成に、二層注力しています。語学力はもとより、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能

力、そして母国語・外国語によるコミュニケーション能力といった実践的な応用能力を身につけ、主体的に判断し行動することができる人材の育成をめざします。21世紀の教育に求められる国際基準に則した教育内容は、甲南学園が設立当時よりめざしたもので、平生が志した教育のほか



学園創立90～100周年記念として甲南高等学校・中学校に設けられた甲友会館（ル・カスク）。



旧制甲南高校に平生が設置した食堂では、教員が生徒の間に座り、会話をしつつ昼食をとった。

ひらおほちさぶろう  
平生鈇三郎 甲南学園創立者 1866（慶応2）年～1945（昭和20）年

損害保険業界の近代化や川崎造船所の再建を担った実業家であるほか、灘購買組合（現：コープこうべ）の結成に尽力した社会事業家として、また、文部大臣を務めるなど政界でも活躍するが、教育実業家・教育者であることを天職とし甲南学園を創立。2016年は、平生の生誕150周年にあたる。

平生鈇三郎生誕150周年記念シンポジウム  
—おもしろく、ありがたく—

6月11日（土） 開場／13:30 開会／14:30  
主催：学校法人 甲南学園 共催：甲南学園同窓会  
会場：甲友会館（甲南大学岡本キャンパス）

詳しくは、本学ホームページ（<http://www.konan-u.ac.jp>）にて